

小平市制施行50周年記念事業の記録



平成25年9月

小平市制施行50周年記念事業推進本部

～目次～

1	市制施行50周年記念事業の概要	1
2	市制施行50周年記念事業一覧	2
3	市制施行50周年記念事業 事業別報告	4
	■ 市制施行50周年記念式典	6
	■ あゆみ：「郷土の歴史、伝統文化を大切にする」ための事業群	8
	■ きぼう：「未来を創る子どもたちを大切にする」ための事業群	38
	■ いぶき：「魅力あるまちづくりへの活動を大切にする」ための事業群	61
	■ 市民企画事業	96
	■ 協賛事業	109
	■ 広報事業	110
4	市制施行50周年記念ロゴマーク、キャッチコピー	116
5	広報PR	119
6	こだいら大好き 五・七・五 50文字メッセージ	127

1 市制施行50周年記念事業の概要

▽市制施行50周年の基本的な捉え方

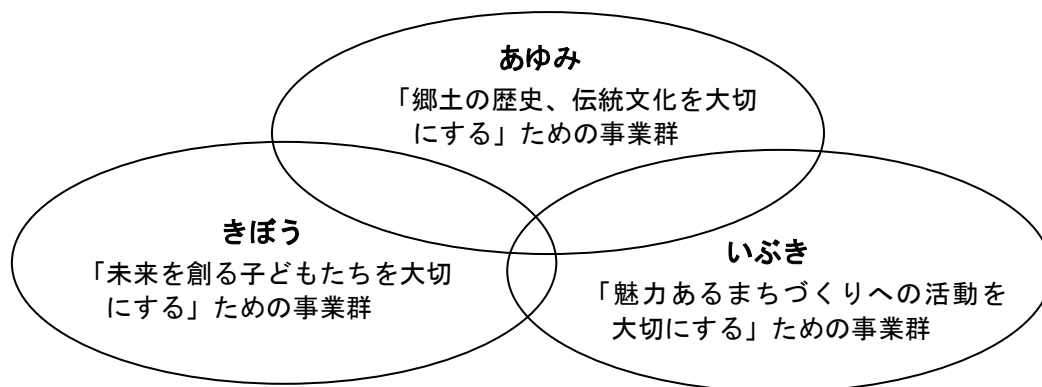
市制施行50周年記念事業の実施に当たっては、「小平市制施行50周年の基本的捉え方と記念事業の編成方針」（平成22年8月）及び「小平市制施行50周年記念事業実施計画」（平成24年2月）に基づき、事業を編成し実施した。

編成方針の中では、この50周年の節目を「市民のみなさんと行政が手を携えて、次なる豊かさを目指して取り組むことが重要」であることと、「過去から未来への時間軸の中で、50年の節目を好機と捉え、これまで小平の礎を築いてきた先人の歩みと労苦に敬意を表し、また、未来の小平を創る次の世代を育て、蓄積を継承していけるよう、将来に向けて種を蒔いていきたい」とした。

▽50周年記念事業の構成

全体のキャッチコピーとして、「こんなに だいすき 小平市！」を掲げ、「あゆみ」、「きぼう」、「いぶき」をキーワードとした、3つの事業群からなる記念事業を実施した。

これらの事業の実施に際しては、単発のイベントではなく、切り口ごとに一定のまとまりを意識しながら、小平の特徴を活かし将来の第一歩となる取組や次世代へ残せる取組を展開した。また、市から市民の皆さんに参加や協力の働きかけを行い、「市民のちから」をサポートしながら事業を展開することで、市民の皆さんの市制施行50周年の意識を高め、市全体が盛り上がることを目指した。



▽取組経過

- 平成22年6月 小平市制施行50周年記念事業推進本部設置
- 8月 「小平市制施行50周年の基本的捉え方と記念事業の編成方針」策定
- 平成23年6月 市制施行50周年記念ロゴマーク、キャッチコピー決定
- 11月 市制施行50周年ホームページ開設
- 平成24年2月 「小平市制施行50周年記念事業実施計画」策定
- 4月 記念事業開始

2 市制施行50周年記念事業一覧

	事業名	開催時期	開催場所	来場者数 (人)	参加・応募 人数(人)	事業費決算 (円)	ページ
共通	市制施行50周年記念式典	10/20	ルネこだいら大ホール	875	—	3,804,003	6
	市民企画事業	—	—	744	234	968,804	96
あゆみ	市史編さん	—	—	—	—	31,010,749 44,074,680	8
	郷土写真展	10/16～10/21	ルネこだいら展示室	738	—	420,738	14
	小平市の公共交通のあゆみ	10/16～10/21	ルネこだいら展示室		—	169,884	15
	50周年記念映像の制作	上映:10/16～10/21	上映:ルネこだいら展示室		—	703,500 1,074,281	16
	新こだいら音頭の制作	披露:10/20	披露:ルネこだいら大ホール	—	—	1,016,000	18
	小平市民まつり前夜祭	10/20	ルネこだいら大ホール 小平駅南口ロータリー周辺	9,000	1,139	5,000,000	20
	特別舞踊公演～春興鏡獅子～	9/22、23	ルネこだいら大ホール	2,231	—	3,848,000	23
	平櫛田中生誕140年記念「平櫛田中展」	9/9～10/21	平櫛田中彫刻美術館	7,791	—	165,730 8,769,777	25
	だいすき小平☆食生活展	募集:5/21～6/29 食生活展:11/11	健康センター2階			276	72
	文化財周知事業	ウォーキングイベント11/10	鈴木遺跡周辺	—	40	4,121,040	34
	鈴木ばやしの映像記録保存	H23 8/13	ルネこだいら中ホール	350	40	344,400 0	36
	子ども・教育フォーラム	12/9	ルネこだいら中ホール			450	36
	きぼう	調べて学ぼう！こだいらっこコンクール	募集:7/1～9/15 表彰式:12/9	表彰式:ルネこだいら中ホール	—	93	42,618
第4回児童絵画コンクール		募集:9/1～9/30 表彰式:12/9	表彰式:ルネこだいら中ホール	—	257	268,284	44
タイムカプセル「10年後の大切な人への手紙」		10/20	ルネこだいら前広場	—	39	162,750	46
児童館イベント		10/10、24、12/8、1/19、 2/24、3/16、3/24	児童館3館、都立小金井公園、 白梅学園大学・短期大学他	1,177	627	1,000,000	48
「だいすき☆小平食生活展」 【再掲】		募集:5/21～6/29 食生活展:11/11	健康センター2階	276	72	980,186	29
小平市子ども議会		7/21	小平市議会議場	101	23	210,268	59
いぶき	第55回全日本花いっぱい小平大会	大会式典、イベント 5/12、13	ルネこだいら大ホール、中央公園、 平櫛田中彫刻美術館、 小平ふるさと村	8,991	646	13,938,130 19,107,022	61
	こだいら名木100選	—	—			—	—
	こだいら環境フェスティバル	9/8	中央公園、 ふれあい下水道館	4,000	49	1,859,679	76
	玉川上水サミット	9/29	津田塾大学	411	—	658,887	78
	小平市民まつり前夜祭【再掲】	10/20	ルネこだいら大ホール 小平駅南口ロータリー周辺	9,000	1,139	5,000,000	20
	丸ポストフォーラム inこだいら	10/20	ルネこだいら中ホール	97	—	222,260 754,485	84
	市民活動まちづくりシンポジウム みんなで作る～「ずっと住みたいまち」小平～	10/6	福祉会館市民ホール			214	27
	ブルーベリー栽培発祥の地こだいら スイーツコンテスト	募集:6/11～7/31 2次審査、表彰式:8/29	2次審査、表彰式: 国際パティシエ調理師専門学校	77	87	410,973	89
	産業まつり	11/10、11	福祉会館前市民広場周辺	65,000	—	1,000,000	93

	事業名	開催時期	開催場所	来場者数 (人)	参加・応募 人数(人)	事業費決算 (円)※	ページ
広 報 事 業 等	市制施行50周年記念ラッピングバスの運行、 小平市公共交通マップ作成	ラッピングバス運行時期 7/7～H25 3/31	—	—	—	1,538,250	110
	NHK「BS日本のうた」公開収録	7/19	ルネこだいら大ホール	946	—	132,982	112
	夏期巡回ラジオ体操・みんなの体操会	8/31	中央公園グラウンド	2,800	—	1,657,654	114
	50周年ホームページ開設	—	—	—	—	1,594,950 0	119
	周知・記念グッズ作成	—	—	—	—	1,913,100 1,452,360	120
	原動機付自転車のご当地ナンバープレート	—	—	—	—	827,400 0	120
				合計(H23年度)	—	—	50,720,219
			合計(H24年度)	—	—	105,574,601	
			総合計	106,269	3,409	156,294,820	

※事業費決算の欄の上段はH23年度決算額、下段はH24年度決算額を記載している。

3 市制施行50周年記念事業 事業別報告

■ 市制施行50周年記念式典

■ あゆみ

ふるさとの文化や歴史を再確認する事業として、11事業を実施した。

- 市史編さん
- 小平をふりかえる～ひと・まち ものがたり～
(郷土写真展、小平市の公共交通のあゆみ、50周年記念映像の制作の3事業を統合して実施)
- 新こだいら音頭の制作
- 小平市民まつり前夜祭(「いぶき」事業にも位置付け)
- 特別舞踊公演～春興鏡獅子～
- 平櫛田中生誕140年記念「平櫛田中展」
- だいすき☆小平食生活展(「きぼう」事業にも位置付け)
- 文化財周知事業
- 鈴木ばやしの映像記録保存

■ きぼう

将来を築く子どもが夢を描く事業として、7事業を実施した。

- 子ども・教育フォーラム
- 調べて学ぼう！こだいらっこコンクール
- 第4回児童絵画コンクール
- タイムカプセル「10年後の大切な人への手紙」
- 児童館イベント
- だいすき☆小平食生活展(「あゆみ」事業に記載)
- 小平市子ども議会

■ いぶき

新たな風を吹き込み、みどりあふれる将来の小平への魅力づくり、しかけづくりを行う事業として、9事業を実施した。

- 第55回全日本花いっぱい小平大会
- こだいら名木百選
- こだいら環境フェスティバル
- 玉川上水サミット
- 小平市民まつり前夜祭(「あゆみ」事業に記載)
- 丸ポストフォーラム in こだいら
- 市民活動まちづくりシンポジウム みんなで創る～「ずっと住みたいまち」小平～
- ブルーベリー栽培発祥の地こだいらスイーツコンテスト
- 産業まつり

■ 市民企画事業

市民企画事業は、多くの市民や市民団体が50周年記念事業に参加・参画し「市民のちから」で記念事業を展開するとともに、「あゆみ」、「きぼう」、「いぶき」のメッセージを市民自らが発信していくことを目的に6事業を実施した。

- 自治基本条例に関する市民啓発事業
- 食物資源（生ごみ）循環はいのちの循環
- 竹内洋岳氏講演会
- 小平市民憲章や市歌等を参加者が毛筆で書く文化承継事業
- 市民フォーラム「シニアが自分らしくいきいきと安全に過ごすための知恵探し」
- 映像を活用した地域の魅力発見 シンポジウム

■ 協賛事業

協賛事業は、後援名義等使用承認の手続きに準じて、希望する者の申請により、市制施行50周年記念としての協賛を行う名義の使用を承認し、協賛事業として、広く市制施行50周年のPRに貢献していただいた。

■ 広報事業

記念事業の趣旨やメッセージの発信のため、市の広報媒体の利用やメディアの活用などにより実施した。

- 市制施行50周年記念ラッピングバスの運行、小平市公共交通マップ作成
- NHK「BS日本のうた」公開収録
- 夏期巡回ラジオ体操・みんなの体操会
- 50周年ホームページ開設
- 周知・記念グッズ作成
- 原動機付自転車のご当地ナンバープレート

市制施行50周年記念式典

▽目的

市制の施行を記念して市民が一体となって祝う場を作るとともに、市政に功労のあった方を表彰することで、市民としての小平市への愛着を喚起し、市への関心の向上を図ることを目的とする。

▽主催

小平市

▽事業概要

よさこい演舞、市制施行50周年記念映像上映、鈴木ばやし披露、式典（表彰、感謝状贈呈等）、ふるさとトークショー

▽実施日

平成24年10月20日（土）午前10時～午後1時

▽場所

ルネこだいら大ホール

▽来場者数

875人（市民参加者511人、受賞者、招待者等364人）

▽記念品等配付物

式典パンフレット、市制施行50周年記念品（クリアファイル、鏡獅子と気楽坊の2種類）、市制施行50周年記念誌、和菓子引換券

▽実施状況

● オープニング

オープニングとして、舞華による「よさこい」演舞、市制施行50周年記念映像の上映、鈴木ばやし保存会による「鈴木ばやし」の披露を行い、来場者から盛大な拍手が沸き起こった。



市制施行50周年記念誌など



舞華による「よさこい」



「鈴木ばやし」の披露

● 第1部「式典」

「式典」では、市長から、自治功労者や自治協力者等の各部門の代表者へ、表彰状、感謝状の授与が行われた。市制施行50周年の特別表彰として、小平ジュニアバドミントンクラブ、小平第三中学校吹奏楽部、小平第六中学校吹奏楽部と、オープニングを飾った舞華の4団体が表彰された。



式典の様子



市長から表彰状を贈呈

● 第2部「ふるさとトークショー」…大林素子さん（小平市出身、元女子バレー全日本選手、スポーツキャスター、神戸親和女子大学客員教授）

幼稚園から小平市に住み始め、社会人として日立製作所バレー部に入り、29歳でイタリアのプロバレーボール選手になるまで、小平っ子であった大林さんから、小平市の思い出や印象、オリンピックのことなどが語られた。また、来年のスポーツ祭東京2013で、小平市の開催競技がバレーボールということで、みんなで盛り上げて応援するよう、来場者に呼び掛けていただいた。



小平市の思い出などを語る大林素子さん

▽事業費

3,804,003 円

市史編さん

▽目的

小平の歴史を明らかにし、魅力ある郷土を後世に伝え、これからも住み・働き・学び・訪れたいまちとしての魅力づくりに努めることを基本理念に、市史編さん事業を進める。

▽主催

小平市

▽事業概要

小平市史編さん事業は、“ふるさと”である小平に愛着を感じてもらえる市民が少しでも増えてほしい、という願いを込めて、平成20年10月から市史編さん事業を進めてきた。

平成24年10月に「近世編」を、平成25年3月に「近現代編」、「地理・考古・民俗編」を発行した。これにより、小平市史本編全3巻が完結した。

また同時に、小平市史別冊として「写真集」と「図録」を発行した。



小平市史本編3巻（上）と写真集、図録等

▽小平市史及び関連出版物

書名		ページ数	刊行年	価格
小平市史本編	近世編	868	平成24年	2,600円
	近現代編	861	平成25年	2,600円
	地理・考古・民俗編	881	平成25年	2,600円
小平市史別冊	写真集「こだいらの『郷土写真』」	143	平成25年	1,600円
	図録「近世の開発と村の暮らし」	101	平成25年	1,700円
小平の歴史を拓く -市史研究-	創刊号（品切れ）	98	平成21年	290円
	第2号	241	平成22年	450円
	第3号	244	平成23年	400円
	第4号	174	平成24年	300円
	第5号	197	平成25年	350円
小平市史料集 -近現代編-	第1集「小平村議会会議録（上巻）」	489	平成22年	1,300円
	「小平村議会会議録（下巻）」	476	平成22年	1,300円
	第2集「小平町議会会議録」	607	平成22年	1,300円
	第3集「小平市関連新聞記事集（上巻）」	282	平成23年	700円
	「小平市関連新聞記事集（下巻）」	550	平成23年	1,400円
	第4集「小平市の市民生活」	579	平成23年	1,400円
	第5集「小平の近現代基礎史料」	591	平成24年	1,500円

▽小平市史本編の概要

● 「近世編」：江戸時代の小平<村の開発とくらし、そして変化>

小平市史「近世編」は、現在の小平市域における近世という時代（江戸時代）を、第一章から第三章まで、大きく3つの時期に分けて記述している。

第一章では「村ができる－17・18世紀の村の開発と支配－」と題して、村の開発と支配の様子を取り上げている。この章では、「開発」を単なる経済的な問題としてだけではなく「新しい公共性・共同性の創出と展開」として捉え、多方面から詳細にわたり説明している。

第二章では、村が成立した後の18・19世紀の村の様子を述べている。近世は比較的「平和」な時代といわれているが、「存立」と「安定化」に向けた村の努力の様子を鮮明に描いている。

第三章では、19世紀の幕末維新期の村と地域の変化の様相について記している。小平でも19世紀になると、生産力が高まる反面貧富の差が大きくなり、様々な社会問題が生じている。また、幕末の混乱期を迎え、村の努力だけでは克服できない時代になっていき、変わっていく村の様子を明らかにしている。

このように近世編は、村の誕生から村が大きく変化した時代まで、詳細かつ分かりやすく解き明かしている。

● 「近現代編」：明治時代以降の小平<3つの視点とくらしを支える仕組み>

「近現代編」は、史料の悉皆調査と聞き書きによって見えてきた、「改良」「開発」「福祉」の3つを柱とした小平の近現代を記し、「小平は『歴史をそなえた都市』に育ってきている」としている。また、各章に「くらしを支える仕組み」の節を設け、くらしを支える仕組みの歴史的な変化を明らかにしている。

内容構成は、8つの章から成り、第一章では、村の維持と題して明治維新期の小平の様子を地租改正や自由民権の面から描き、第二章では、小平村の誕生（明治22年）から日清・日露戦争までの揺れた時期について、第三章では、大正末期から昭和初期の学園開発やくらしの防衛の様子を、第四章では、戦時開発と町制施行（昭和19年）など終戦を迎えるまでの小平について、第五章では、戦後の小平町の出発について、第六章では、進む郊外化と市制施行（昭和37年）を、第七章では、郊外都市としての小平市と市民生活について、第八章では、小平市の現在を記している。



昭和初期の小平学園

● 「地理・考古・民俗編」：小平の地形・地質、遺跡、生活風土・伝承文化く3つの分野から>

「地理・考古・民俗編」は、小平の気候や地形、地質などを記した地理編と、鈴木遺跡や八小遺跡など発掘調査結果をまとめた考古編、小平の昔の生活風土・伝承文化などを記述した民俗編の3編から構成されている。

地理編では水の問題に着目して地下水や窪地の状況を記述したほか、自然災害についても概説している。考古編では東山道武蔵路や鈴木水車の遺構調査および「烏犀圓」や「納税／完納賞」の陶磁器にも触れている。また、民俗編では11の章を設け、昭和初期の家計簿から農耕生活にみる暮らしぶりを明らかにしたほか、暮らしの変化を農作物の変化や庭先販売、暮らしの空間、衣食住などの面にスポットをあてて記しており、また、人と物の動き、都市化のなかの祭り、人と人のつながり、などの章を設けて小平の民俗を明らかにしている。

▽小平市史別冊の概要

● 「こだいらの『郷土写真』」

写真集に掲載した写真は、主に小平市立図書館に所蔵されている郷土写真資料と、小平市編さん過程で撮影、収集したものである。

構成は「1 フィルムのなかの小平」と「2 写真群のなかの小平」の2部構成とし、「1 フィルムのなかの小平」は、小平が農村からまちへと移りゆくなか、日々の暮らしの何がどのように変わり、継承されてきたのかを、まちの景観や行事、生産活動などのテーマに分け表している。「2 写真群のなかの小平」は、小平第六小学校の創立30周年の時に展示された写真群にあらわれる小平の姿を紹介している。

収録写真には、1928年（昭和3年）の小平学園開発や小平第三小学校上棟式の写真など古いものもあるが、大半が戦後の写真で、収録総点数は、344点である。小平の昔の暮らしが、これらの写真から見て取れる。

● 「近世の開発と村の暮らし」

小平の歴史の特色として知られている近世の新田開発と村の暮らしに焦点をあて作成した。絵図や古文書から近世の小平の姿を描いているのが特徴である。

全体を12章に分けて構成し、1章は国絵図に記された村々として、小川村が開発される前の時代の「正保国絵図」（1644～47年）をはじめ、「元禄国絵図」（1688～1703年）、「天保国絵図」（1830～43年）といった3大国絵図によって武蔵野の村々の開発と変化の様子を示し、2章は村ができるまでとして、「戦国時代の集落分布と地下水」、「玉川上水と武蔵野への分水路」の図と街道の写真を配した。3章から9章までは、小川新田、鈴木新田など7つの村の開発について、絵図・文書・写真及び図表を使って概説している。10章は村のしくみと文書、11章は玉川上水と暮らし、12章は鷹場と村、といった開発以外の近世の歴史的な特色について記している。収録した資料は、総点数190点である。

▽小平市史研究、小平市史料集の概要

市史編さん事業の成果として、活動報告・論文・研究報告・資料紹介・コラム・市民の声などを掲載した「市史研究」と、近現代編の基礎的な資料を収録した「小平市史料集近現代編」を刊行した。「市史研究」は、平成25年3月に第5号を発行した。

第5号は、論文、研究報告として、近世後期の地域文化の生成、小平市の気候、「地域ぐるみ」の教育運動、小平村の戸数割、鉄道からみた小平の歩み、苛酷の中から目覚める百姓（御門訴事件）、小川寺の梵鐘と小川村の宿屋及び勸化、などを掲載している。

▽市史編さん事業の進め方

市史の編さんは、東京学芸大教授・大石学先生を委員長とする「市史編さん委員会」を立ち上げ、若手研究者によって調査・研究を進め反映させたほか、地元市民の皆さんからの聞き取り調査を行いまとめた。

● 市史編さん推進体制

市長が本部長となり、平成20年から「市史編さん事業推進本部」を設置した。また、市史の編集・発行に向けて、市民や学識者からなる「市史編さん委員会」を設け、市史編さん基本方針を策定して、市史編さん作業を行った。「市史編さん委員会」は、9名の委員からなる会議で、市史の監修や史料の調査・研究を主な目的としている。

● 市史編さん基本方針

小平の歴史を明らかにし、魅力ある郷土を後世に伝え、これからも住み・働き・学び・訪れてみたいまちとしての魅力づくりに努めることを基本的な理念として、小平市史の編さんを進めた。



市史編さんの活動



小川村開拓当初の景観模型造り

▽市史編さんの活動

市史の編さんを進めるにあたり、多くの市民の皆さんの協力をいただいた。皆さんが持つ豊かな知識や情報が、市史の内容の充実につながった。

● 地域連携・市民協働

今まで培った力を生かして、市史編さんに役立て、自分たちの地域理解になるならば自分たちも参加したいという声があがり、さまざまな連携を行った。

○ 模型造り

職業訓練大学の先生の指導で、学生と市民が連携し、玉川上水の取水口の一つである小川分水の樋口(といぐち)の模型、小川村開村当初である延宝2(1674)年ごろの小川村の町並みの模型を作成した。



模型造り

○ 図面のデジタル化

小平アーカイブスの会の協力により、明治時代の公図から村単位および小平村全体のデジタル画像を作成した。



図面のデジタル化

○ 学校との連携

小学校資料調査時の市史編さんに関する臨時授業、中学校の小平市教育研究会での研修・広報活動など、多岐に渡り連携した。

～ 市史編さんの作業をしていただいた方の声 ～

- ◇ 人も土地も同じで、歴史や由来を知り、理解が深まるほど相手とのきずなが強まるのではないかと考えています。市史編さんへのかかわりが市民の「こだいら」を愛する気持ちをよりいっそう深めるのに少しでも役立ってくれるのを願っています。
- ◇ 小学校6年間を小平で過ごし、関西に戻っていましたが、まさかこの町で子育てをすることになるとは。あれから11年。市史編さんに携わり、子ども時代の記憶に加え、さらに昔の情景を重ねながら、第2の故郷小平を歩きつ戻りつ歩いています。
- ◇ 小平に住んで25年。人生のうちで一番長く暮らしたこの地のことを、より深く知りたいという思いが年々強くなります。古文書の釈文など、基礎資料作りの作業をしながら、遠い昔、荒地を切り拓き、農地をつくり続けた先人たちに思いをはせています。

▽成果

平成 20 年度にスタートし、公文書、古文書の史料調査及び各編での地域住民や関係機関からの聞き取り調査、情報収集を行い、その成果を毎年、「小平の歴史を拓くー市史研究ー」及び「小平市史料集」として刊行し、広く市民に広報をしてきた。

そして、4 年間にわたる調査・研究をもとに、市制施行 50 周年を迎える平成 24 年度に、小平市史「近世編」、「近現代編」、「地理・考古・民俗編」の全 3 編、及び小平市史別冊「写真集小平の『郷土写真』」、「図録 近世の開発と村の暮らし」の 2 冊を刊行した。

小平市史編さんは、単にこれまでの歴史を振り返り検証するというだけでなく、歴史的な流れの中で現在の小平市を見つめ直し、将来を展望するという点からも、大きな意義があったと言える。

今後、この成果が広く市民に親しまれ活用されることを期待している。

▽今後の取組

平成 25 年度には、市史付編として「年表」、「索引」と「市史研究第 6 号」を発行する予定である。また、平成 26 年度には、市史各編のおおすじをまとめた市史「概要版」（仮称）を発行する予定である。

さらに、小平市史全 3 編の刊行を記念して、監修者を講師に迎え、平成 25 年度に市史刊行記念講演会を開催する。講演会では、江戸時代の新田開発から現代までの小平の歴史や民俗を取りあげながら、市史編さん過程で判明した新たな成果などを紹介する予定である。

▽事業費

31,010,749 円（平成 23 年度）

44,074,680 円（平成 24 年度）

小平をふりかえる～ひと・まち ものがたり～

50周年記念事業の「郷土写真展」、「小平市の公共交通のあゆみ」、「50周年記念映像の制作」の3つの事業をまとめ、「小平をふりかえる～ひと・まち ものがたり～」として、合同で開催した。

また、開催期間中に、市民まつりが実施されることから、歴代の市民まつりのポスターやチラシを展示し、盛り上がりを醸成した。

▽目的

市制施行50年の歴史を写真、物品、映像等を通して、小平のまちの移り変わりを再認識するとともに、郷土小平への愛着や親しみを感じてもらうことを目的とする。

▽主催

小平市、小平市教育委員会

▽協力

西武バス、立川バス、京王バス、銀河鉄道、関東バス、
都営バス、小平交通、三幸交通、三幸自動車、三和交通、
東京昭和運輸、美玉交通、西武鉄道
小平市コミュニティタクシーを考える会

▽実施日

平成24年10月16日（火）～10月21日（日）

▽場所

ルネこだいら展示室

▽来場者数

738人

▽実施状況

● 郷土写真展

図書館では、昭和52年に初めて開催した郷土写真展を契機に、小平市に関する古写真の収集、市内の定点撮影、郷土写真展の開催等を行ってきた。所蔵する郷土写真は5万5千点ほどあり、現在はデジタル化にも取り組んでいる。今回は、市制施行50周年記念事業として、これまでに小平市立図書館が行ってきた郷土写真展及び所蔵している郷土写真のなかから、昭和30年代以降の写真134枚を選定し展示した。また、展示写真をすべて掲載した図録を作成し、一部550円で販売を行った。

・図録の販売部数：71部（ルネこだいら展示室では53部）※平成25年3月31日現在



ポスター「小平をふりかえる」



郷土写真展コーナー



郷土写真展図録 ~小平のいまむかし~

● 小平市の公共交通のあゆみ

市内を走る鉄道事業者、バス事業者、タクシー事業者等の協力を得て、市の公共交通にまつわる貴重な写真や物品を展示した。また、子どもにも楽しんでもらえるよう全国バスチョロQやNゲージの展示や、にじバスのペーパークラフトコーナーやぶるべー号ぬり絵コーナーを設置した。



公共交通のあゆみコーナー



全国バスチョロQの展示

● 50周年記念映像上映

市のこれまでの50年間の歴史の一端や、市制施行50周年を迎えた現在の市の取組や魅力を映像で上映した。具体的な内容としては、小平の歴史を写真や資料で振り返るとともに、小平グリーンロード、玉川上水、ブルーベリー、丸ポスト、鈴木ばやしなどの市の特徴や魅力を映像で紹介した。また、市民の方の自主的な清掃活動や地域における防災活動に関して、市民のインタビューなどを交えて紹介しているほか、中学生の職場体験、大学連携、道路整備など現在の市の取組についても取り上げ、30分程度の映像で紹介した。



50周年記念映像上映コーナー



50周年記念DVD

● 小平市民まつりの歴史

開催期間中の最終日とその前日に、市民まつりと前夜祭が実施されることもあり、歴代の市民まつりのポスターやチラシを展示し、市民まつりへの盛り上がりを醸成した。



小平市民まつりの歴史コーナー

▽来場者の声、成果

「小平をふりかえる～ひと・まち ものがたり～」として各事業を統合し、合同で実施したことにより、規模や内容面においても充実したものとなった。また、実施時期についても、10月20日（土）には、ルネこだいらで市制施行50周年記念式典、丸ポストフォーラム、市民まつり前夜祭など、様々な50周年記念事業が開催されたこともあり、342人が来場し、盛況だった。

また、来場者からのアンケートでは、「小平に住んで55年、町から市への発展が一目で思い出され、大変有意義だった。」「50年前の小平の様子が写真や映像で少しずつわかりました。小平の良さを再認識できました。」「自分の住む街をもっと愛していきたいと思いました。」「小平が大好きです。緑の多い住み良い小平がいつまでも続きますように。」「コミュニティバスやコミュニティタクシー等、今の小平市ならではの交通について展示してあり、興味深かった。」などの感想からも、多くの方にまちの移り変わりや歩みを紹介することができ、小平に愛着や親しみを感じていただくよい機会となったことが伺えた。さらに、子どもたちが、Nゲージの操作や全国バスチョロQの展示にくぎ付けになっている様子からも、子どもから大人まで多くの方に楽しんでもらえるものとなった。

▽事業費

- ・ 郷土写真展
420,738 円
- ・ 小平市の公共交通のあゆみ
169,884 円
- ・ 50周年記念映像の制作
703,500 円（平成 23 年度）
1,074,281 円（平成 24 年度）

新こだいら音頭の制作

▽目的

毎年10月の小平市民まつりをはじめ、市内各地でさまざまな祭りや盆おどりなどが行われている。地域の絆をより一層強めるとともに、市の魅力をアピールするため、「新こだいら音頭」を制作する。

▽事業概要

歌詞については、広く市民から募集を行い、歌詞選考委員会の選考により、歌詞は加藤元宣さんの作品が選ばれた。花や樹木など小平市の豊かな自然、グリーンロード周辺の美しい風景、ブルーベリー、丸ポスト、灯りまつりなどの小平市の魅力とともに、「小平よいよいよいところ」の印象的なフレーズが、歌詞の中に織り込まれている。また、作曲は市内の音楽家山田大輔さんに依頼し、子どもから大人まで多くの方に親しまれ覚えやすい、明るい曲調に仕上がった。この「新こだいら音頭」に、藤間喜玖城さん監修のもと新こだいら音頭制作実行委員会のメンバーが盆踊り用の振付をつけ、団体の皆さんが練習を重ね、10月20日（土）の市民まつり前夜祭で披露された。



「新こだいら音頭」CDジャケットより



「新こだいら音頭」CDジャケットより

▽成果

歌詞の応募状況は、20歳代から80歳代までの市民の皆さんから38作品の応募があり、小平の緑豊かな自然、故郷としての小平などを扱った作品が多く寄せられた。また、コダレンジャーと一緒に歌って踊りたい、ラップ調の曲を付けて欲しいなどのコメントもあり、応募作品を通して、市民の皆さんの小平への熱い想いが伺えるとともに、記念事業への参加意識を高めることにつながった。さらに、市民まつり前夜祭で、市民の皆さんが振付をつけて楽しそうに踊っている様子からも、今後地域で親しまれ、市民の踊りとして普及への期待がもてるものとなった。

▽今後の取組

「新こだいら音頭」のさらなる普及を図るため、CDと見本踊りのDVDを作成するとともに、市のホームページにおいて動画発信を行うなど、PRに努める。また、小・中学校、保育園、幼稚園、自治会等に配布や貸与し、この「新こだいら音頭」を通して、市民同士が集いふれあう場づくりのきっかけを目指す。



市民まつり前夜祭で初披露



元気よく踊る子どもたち

▽事業費

1,016,000円

小平市民まつり前夜祭

▽目的

市民や各種団体等がそれぞれの立場で、参加することにより、市民意識及び連帯意識（ふれあい等）の向上を図り、新しい「ふるさと」づくりを促進する。

▽主催

小平市民まつり実行委員会

▽後援

小平市、小平市民憲章推進協議会

▽事業概要

毎年10月に実施している「小平市民まつり」を拡充し、前日の夜に「前夜祭」として、「地域伝統芸能大会」と「小平駅前ロータリーイベント」を開催し、市制施行50周年を盛大に祝った。

▽実施日

平成24年10月20日（土）午後4時～8時30分

▽場所

- ・地域伝統芸能大会：ルネこだいら大ホール
- ・小平駅前ロータリーイベント：小平駅南口ロータリー仮設ステージとその周辺

▽来場者数

約9,000人

▽参加者数、団体数

1,139人、41団体



小平市無形民俗文化財 鈴木ばやし



おびら太鼓 麓龍の演奏

▽実施状況

● 地域伝統芸能大会 : 午後 4 時～6 時

- ・ 鈴木ばやし (市無形民俗文化財)
- ・ 「新こだいら音頭」の発表披露 (作詞者、作曲者、振り付けの紹介)
- ・ よさこい 迫-HAKU- (小平市を中心に活動するダンスパフォーマンス団体)
- ・ 岩戸神楽 (天満降臨・天岩戸開きの神話と伝説で彩られる国指定重要無形文化財)
- ・ おびら太鼓麓龍 (姉妹都市北海道留萌郡小平町)

※司会：たくさんあります！小平の魅力つたえ隊 LLR (お笑いよしもと若手芸人)

地域伝統芸能大会では、鈴木ばやしの舞に続き、市制施行50周年を記念して制作した「新こだいら音頭」の作詞者と作曲者のインタビューを行い、その後、振りつきで、「新こだいら音頭」を観客の前で初披露した。また、姉妹都市北海道留萌郡小平町の「おびら太鼓麓龍」の他、宮崎県西臼杵郡高千穂町から国指定重要無形文化財の「岩戸神楽」が披露された。

司会は、市制施行50周年の小平市と創立100周年の吉本興業グループが一緒になって、小平の魅力に関する情報発信をするために結成した「たくさんあります！小平の魅力つたえ隊」のメンバーである「LLR」が務めた。「LLR」のメンバーの一人である、伊藤さんは小平市出身ということもあり、自身の小平市でのエピソードを交えながら、市の魅力を伝えた。



「新こだいら音頭」を初披露



迫力のあるダンスパフォーマンス集団「迫」-HAKU-

● 小平駅前ロータリーイベント : 午後5時～8時30分

- ・ オープニング吹奏楽演奏 (小平青少年吹奏楽団)
- ・ よさこい競演 (舞華、小平よさこいの会、迫-HAKU-)
- ・ 盆踊り (新こだいら音頭ほか)
- ・ 岩戸神楽 (天満降臨・天岩戸開きの神話と伝説で彩られる国指定重要無形文化財)
- ・ おびら太鼓麓龍 (姉妹都市北海道留萌郡小平町)
- ・ みこし渡御 (佼成グループ、熊野宮管内自治会、小川睦会)

夕方からの小平駅前のロータリーイベントでは、「新こだいら音頭」を市民の皆さんと踊ったり、例年の市民まつりでは見ることのできない「万灯みこし」が登場するとともに、よさこいの競演、岩戸神楽、おびら太鼓と大きな盛り上がりを見せた。夜に出発する「万灯みこし」に灯りがつけられると、祭りにふさわしい雰囲気、小平駅前の夜が華やかに彩られた。



万灯みこし



小平駅前ロータリーの様子

▽事業費

5,000,000 円

特別舞踊公演～春興鏡獅子～

▽目的

小平市及び小平市名誉市民で文化勲章受章者の彫刻家 平櫛田中にゆかりがある歌舞伎の演目を、関係者の対談を交えて実施することで、市民に伝統的な芸術文化を鑑賞する機会を広く提供するとともに、市制施行50周年の祝賀ムードを高める。

▽主催

小平市、公益財団法人小平市文化振興財団

▽事業概要

平櫛田中が六代目尾上菊五郎をモデルに完成させた代表作「鏡獅子」。その演目である「春興鏡獅子」を六代目菊五郎のひ孫にあたる尾上菊之助の主演により、ルネこだいらの舞台上で上演した。

▽実施日

平成24年9月22日（土）～9月23日（日）

▽場所

ルネこだいら大ホール

▽来場者数

2,231人（22日：1,123人、23日：1,108人）

▽実施状況

- 第一部 対談「鏡獅子をめぐって 小平市と平櫛田中」
（出演）尾上菊之助、平櫛弘子（平櫛田中彫刻美術館長）、小林正則（小平市長）、葛西聖司（アナウンサー・古典芸能解説者）

- 第二部 新歌舞伎十八番の内「春興鏡獅子」

（出演）尾上菊之助ほか

歌舞伎公演の前段で、「鏡獅子をめぐって～小平市と平櫛田中～」をテーマに、尾上菊之助さん、アナウンサーの葛西聖司さん、小林市長、平櫛館長による対談を実施し、小平らしさあふれる公演となった。



第一部「対談：鏡獅子をめぐって」

▽来場者の声、成果

来場者からのアンケートでは、「上演前に十分な解説があり、観賞上、大変役立った。小平市の紹介を改めて見聞きし、住民として嬉しく思った。」、「第一部の説明もわかりやすく、鏡獅子の説明もあったので初めてでも理解することができた。最高だった。」、「菊之助、平櫛館長、小林市長と葛西アナとの対談は、映像を交えて幾多のエピソードを聞く事が出来て、興味深かった。」、「対談を聞いて平櫛田中彫刻美術館に行きたくなった。」、「市制施行50周年記念にふさわしいへん面白く拝見しました。」、「自分の住んでいる小平で江戸時代から続いている歌舞伎を見ることが出来て大変よかった」など、歌舞伎はもちろんのこと、対談についても、内容が良かったとの声が多数寄せられた。対談の中で、平櫛田中翁が終の棲家として選んだ小平の魅力ということにふれたこともあり、小平市内外の方から「小平市って素敵なおところですね」といった声が寄せられた。

また、平櫛田中彫刻美術館で開催した「平櫛田中展」とも連携を図り、開催時期を重ね、鑑賞特典をつけるなど、両事業の相乗効果を図った。

チケットがほぼ完売となったことやアンケートの結果からも、この事業に対する関心や満足度は非常に高かったことが伺える。通常では実施が困難な日本伝統芸能である歌舞伎の公演を、ルネこだいらで多くの皆さんに堪能していただく大変貴重な機会を提供できたとともに、歌舞伎を通して小平の魅力を伝え、市制施行50周年の祝賀ムードを高めることにつながるものとなった。

▽事業費

3,848,000円



第二部「春興鏡獅子」

平櫛田中生誕140年記念「平櫛田中展」

▽目的

明治、大正、昭和の長きにわたって彫刻界の第一線で活躍した平櫛田中の各時代の代表的な作品を紹介し、日本近代彫刻史における正当な位置づけを試みる。

▽主催

小平市教育委員会、平櫛田中展実行委員会

▽共催

ふくやま美術館、三重県立美術館

▽後援

読売新聞東京本社立川支局、朝日新聞立川支局、
毎日新聞多摩総局、東京新聞立川支局、
産経新聞多摩支局、西武鉄道株式会社、J-COM 西東京、
エフエム西東京、ほのぼのマイタウン



展覧会のチラシ(表面)

▽事業概要

平櫛田中生誕140年を記念し、ふくやま美術館、三重県立美術館との共同企画による初めての全国規模の回顧展を開催した。

▽実施日

平成24年9月9日(土)～10月21日(日)の43日間(会期中無休)

▽場所

小平市平櫛田中彫刻美術館

▽来場者数

7,791人(1日平均181.2人)

▽連携事業

ルネこだいらで開催した「特別舞踊公演～春興鏡獅子～」(9月22日、23日開催)と連携し、チケットを持参の方は、会期中一回に限り、美術館の入館が無料になる特典を設定した。

▽実施状況

平櫛田中は、明治5年に現在の岡山県井原市に生まれ、昭和54年に107歳で小平市で亡くなった、近代日本を代表する彫刻家である。平櫛田中は、没後も高い人気を保持し、これまで多くの展覧会が開催されたが、長い芸術活動の中で幾度も作風を変えてきた作家であるため、近代日本彫刻史に位置づける作業は充分に行われてきたとはいえない状況である。このため、近年の彫刻史研究の成果を踏まえて各時期の重要作品によって、この不世出の彫刻家の真の姿を浮き彫りにすることを目指した。また、開催日初日に、オープニングセレモニーを実施した。



展覧会の会場風景

● オープニングセレモニー

- ・日 時：9月9日（日）正午～午後1時
 - ・招 聘 者：尾上菊之助（歌舞伎俳優）、展覧会関係者（共催館職員、作品所蔵者など）
- 連携事業として実施したルネこだいらでの「春興鏡獅子」の公演（9月22日、23日開催）と「平櫛田中展」の宣伝を兼ねて、出演者の尾上菊之助さんにご出席をいただき、素敵なセレモニーとなった。



尾上菊之助さん（中央）とともに
オープニングセレモニー

▽会期中のイベント

● 記念トークショー「秋川雅史×平櫛弘子」

ゲストに「千の風になって」で有名なオペラ歌手・秋川雅史さんを迎え、当館館長と彫刻の魅力について語っていただき、展覧会に花を添えるイベントとなった。

- ・日 時：9月29日（土）午後1時30分～2時30分
- ・場 所：一橋大学小平国際キャンパス
- ・来場者数：152人

● ナイトミュージアム

ナイトミュージアムとして、通常午後4時までの開館時間を延長し、午後8時まで開館した。

- ・実 施 日：10月5日（金）、6日（土）
- ・来場者数：49人（2日間合計）

● 美術講座「平櫛田中の生涯とその芸術」

- ・日 時：10月13日（土）午後1時30分～2時30分
- ・場 所：平櫛田中彫刻美術館展示館
- ・講 師：当館学芸員
- ・来場者数：60人

● 秋のお茶会

小平市茶道華道友の会と津田塾大学表千家茶道部の協力により開催した。例年の2倍程度の参加者があり、大盛況だった。

- ・日 時：10月12日（金）～14日（日）午前10時～午後3時
- ・場 所：平櫛田中彫刻美術館記念館庭園
- ・来場者数：343人（3日間合計）

▽広報

開館以来最大規模での開催にあたり、各種メディアへの取材誘致等を積極的に行った結果、以下のとおり多くのメディアへ掲載され、来場者数の増加に寄与した。

● テレビ

NHK日曜美術館「アートシーン」9月30日（日）

J-COM「ジモトピ多摩」 10月1日（月）～7日（日）

● 新聞等

『東京新聞（多摩版）』 9月8日（土）

『朝日新聞（多摩版）』 9月13日（木）

『読売新聞（多摩版）』 9月25日（火）

「よみほっと 名言巡礼」『読売新聞（全国版）』 9月30日（日）

『都政新報』 10月2日（火）

『朝日新聞（全国版）』 10月10日（水）

『タウン通信』 10月16日（火）

『毎日新聞（全国版）』 10月17日（水）

● ポスター掲出

市内公共施設、西武新宿線車内及び各駅（高田馬場駅、国分寺駅、所沢駅）へのポスター掲示など



展覧会のチラシ（裏面）



西武新宿線で掲載した車内広告

▽成果

今回の展覧会は、ふくやま美術館、三重県立美術館との三館共催の巡回展として実施し、出品作品の調整、作品輸送など、準備、運営等多くの面で連携、協力を図ったことにより、初公開の4作品を含む、平櫛田中の各時代を代表する珠玉の62点を展示することができ、全国規模の回顧展にふさわしい展覧会となった。

また、西武新宿線内の車内広告掲示などPRにも力をいれ、テレビや新聞など多くのマスコミにとり上げられたこともあり、会期中の来場者数は過去最高の7,791人を記録した。その他の集客力を上げる工夫として、ルネこだいらで実施した「特別舞踊公演～春興鏡獅子～」(9月22日、23日開催)と連携し、チケットを持参の方は特別展の会期中一回に限り、美術館の入館が無料になる特典を設定したところ、352の方が、「鏡獅子公演」の無料チケットにより来館された。さらに、作品特別展の会場で販売したミュージアムグッズの売り上げも好調で、特別展の図録(879冊)は完売となった。

▽今後の取組

常設展の展示作品を中心に、画像と音声で希望の作品解説を聞くことができるように、iPad miniを使った展示作品の多機能音声ガイドの貸出サービスを開始し、魅力ある美術館となるよう取組を進めていく。

▽事業費

165,730円(平成23年度)

8,769,777円(平成24年度)



特別展の展示の様子



全国から多くの作品を集めた

だいすき小平☆食生活展

▽目的

50年前から現在までの食の変遷を知ることで、食生活を見つめなおし、目指す食生活とは何かを考え、これからの子どもたちに楽しい食生活と健康を伝えていく機会とする。

▽主催

小平市

▽協力

小平郷土研究会

▽事業概要

50年前から現在、未来の食生活に関する展示のほか、「小平やさいたっぷりメニューコンクール」を実施した。

▽実施日

平成24年11月11日（日）

▽場所

小平市健康センター2階（健康フェスティバル会場内）

▽来場者数、応募作品数

- ・食生活展来場者数 276人
- ・メニューコンクール応募作品数 72点

▽実施状況

● 50年前から現在までの食生活展示

◇ 昭和30年代の小平～写真で見る農家の暮らし～

農家の写真のほか、小平郷土研究会の協力で、糧うどんやゆでまんじゅうの展示とうどん作りの上映。

◇ お茶の間再現！！～のぞいてみよう昔の食卓～

ちゃぶ台、七輪、おひつ、電気炊飯器、蝇帳、魔法瓶、かつお節削り器、買い物かご等を展示。

◇ 小平の小学校給食の歩み～その時々生活とのつながり～

社会の移り変わりとともに、学校給食がどのように変わってきたのか、年表とともに展示。

◇ 昔のおやつ・今のおやつ～栄養面から考えてみよう～

おやつに含まれている、脂や砂糖の量等を表示し、栄養面から昔と今を比較。昔のおやつのレシピの紹介。

◇ 考えよう！！一日の食事～昔は？今は？わたしは？～

昔からの食の移り変わりを見て、今、そしてこれからの食事を考えた、食事カードでのバイキング。



小平の学校給食の歩み

◇ 健康な未来のために～わたしたちができること～

健康日本21、野菜350gの展示。健康な未来のためのメッセージ書き。

◇ わたしも審査員！～小平やさいたっぷりメニューコンクール最終選考

上位2作品を試食による投票によって最優秀賞を決定。

● 小平やさいたっぷりメニューコンクール

内 容 小平のやさいをたっぷり使ったメニューコンクール

条 件 以下の3つの条件をすべて満たしていること。

- ・野菜を3種以上使用している
- ・2人分で140g以上の野菜を使用している。
- ・おおむね30分以内で手軽に作ることができる。

応募資格 小平市在住、在勤、在学、在園の方

応募期間 平成24年5月21日（月）～6月29日（金）

応募作品数 72点

応募内訳 小学生46点、中学生3点、成人23点

1次選考 応募作品全72点について、書類選考を行い、21点を選考した。

2次選考 試作および試食により、12点を入賞作品として選出した。

最終選考 上位2点について、食生活展会場において来場者が試食して投票を行い、最優秀賞を決定。

投票結果 総数244、最優秀賞（得票数130）、優秀賞（得票数114）

最優秀賞 小平野菜たっぷりクーブイリチー

優 秀 賞 里芋のみそシチュー



最優秀賞
小平野菜たっぷりクーブイリチー



優秀賞
里芋のみそシチュー

▽その後の取組

● 小学校で実施した授業

授業で、「だいすき小平☆食生活展」の展示内容について学習する取組を実施した。

◇ 小学校 第3学年 学級活動授業「小平の給食 今・むかし」

小平の昔の給食はどんなものだったか、今の給食との違いを考える授業を行った。授業当日の給食は50年前の献立を再現し、昔の給食のイメージをつかんでもらった。授業では、牛乳ではなく脱脂粉乳だったこと、主食はパンだけだったこと、先割れスプーンを使用していたことなどをクイズ形式で学び、また、脱脂粉乳を飲んで感想を出し合うことなどを通して、児童は昔の給食についてかなり興味をもったようだった。



授業の様子

◇ 小学校 第4学年 保健体育 「望ましいおやつとり方について」

おやつ調べの結果を導入し、今のおやつには糖分、塩分、脂肪の多いこと、実際に含まれる量などを実感させた。また、市制施行50周年ということから、50年前のおやつを紹介して、やきもちの試食を行った。昔のおやつと今のおやつの違いを考えながら、今、自分たちの健康のためにできることを意識させた。



授業の様子

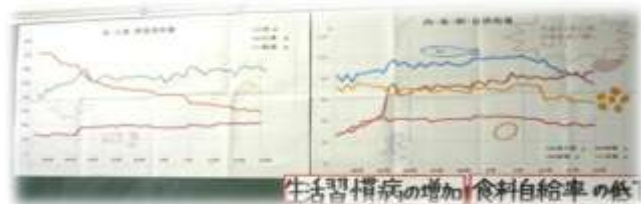
児童のワークシートや感想より

*昔のおやつは、今のおやつとちがった、塩分、糖分を取りすぎていないところがすごいと思ったので、塩分や糖分の入るものは少なめに食べようと思います。時間と量を決めて食べるようにしたいです。

*家でやきもちを作りました。すると、家族で人気になり、毎日、作っています。

◇ 小学校第6学年 家庭科授業 「工夫しよう 楽しい食事」

昭和の後半は食べる量が増え続けていた。バブル後、成人病が生活習慣病と名を変えたころから、徐々におかずの量は減ったが、肉は増え米は減り続けている。授業では、米が主食で、健康に良い地産地消の食事を考えた。子どもたちは肉を減らし、魚や海草、野菜を取り入れて「日本型食生活」を意識していた。



授業で使用した資料

● レシピの活用～給食に取り入れて～

「小平やさいたっぷりメニューコンクール」の最優秀賞「小平野菜たっぷりクーブイリチー」と優秀賞「里芋みそシチュー」を、小学校、中学校、保育園の給食献立に取り入れた。

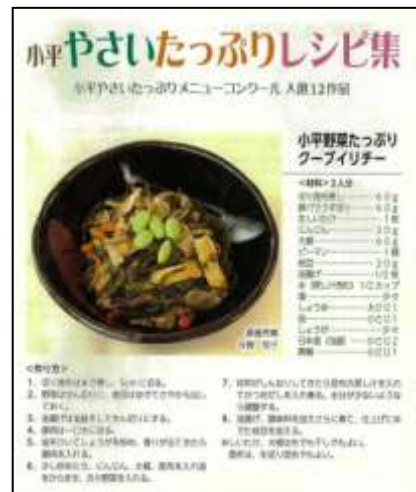


給食に取り入れたクーブイリチー

昆布がたっぷりはいっているクーブイリチーは、「食感がよかった」、「野菜がいっぱい入っていておいしかった」、「こんぶの炒めものが沖縄料理ということを知った」などの感想があった。また、里芋のみそシチューは、「みそとの変わった組み合わせだったが、違和感なくおいしく食べられた」、「たくさんの野菜が入っているみそシチューを初めて食べたけどおいしかった」などの声が寄せられ、子どもたちに人気があった。

● カレンダー・レシピ集の作成

健康づくり啓発事業の取組として、平成13年度から「やさいたっぷりカレンダー」を毎年作成配付し、野菜摂取量向上を目標に活動を行っている。平成24年度は「小平やさいたっぷりメニューコンクール」に入選した12作品のレシピを掲載した。また、入選したレシピを広く伝えていくため、「小平やさいたっぷりレシピ集」も作成した。



やさいたっぷりカレンダー

小平やさいたっぷりレシピ集

▽参加者の声、成果

食生活展でのアンケート結果より「参考になった、気がついた等」という方が67人(29%)で、健康づくりに取り組むきっかけになったと思われる。また、「懐かしい、楽しい、おいしい等」という方が67人(29%)と好評であった。その他の意見としては、「市制施行50周年行事としてとても懐かしいイベントでよかった」、「ママがいつも考えてご飯を作ってくれることに改めて感謝したいと思った」、「食事のバランスについて勉強になった」、「野菜350gがどのくらいか具体的に理解した」など、市民の声を直接聞くことができ、今後の事業の参考となった。

メニューコンクール募集から選考、展示資料の授業への活用、入選レシピの活用(レシピ集、カレンダー作成)など、食生活展当日以外でも、継続して食生活改善のための啓発活動を行うことができたと考えている。

今後も、小・中学校、保育園などと連携し、全てのライフステージにおいて食を通した健康づくりを推進していく。

▽事業費

980,186円

文化財周知事業

文化財周知事業として、鈴木遺跡と八小遺跡についてのウォーキングマップを作成し、遺跡の立地や景観を観察するウォーキングイベントを実施するとともに、市内の石造物、歴史的建造物の調査結果をまとめた報告書を作成した。

1 小平の遺跡をあるくー 鈴木遺跡・八小遺跡 ー

▽目的

鈴木遺跡、八小遺跡を探訪し、学芸員からウォーキングマップを活用した解説を聞くことによって、市民の方々に地域の歴史や文化財に対する関心と郷土への愛着を深める。

▽主催

小平市教育委員会

▽事業概要

平成 24 年 3 月に、市内の鈴木町を中心に所在している鈴木遺跡が、東京都教育委員会から東京都指定有形文化財（史跡）に指定された。鈴木遺跡は、昭和 49 年 6 月に現在の鈴木小学校用地で発見され、約 3 万数千年から 1 万数千年前の後期旧石器時代の人々の暮らしを知ることで、わが国を代表する遺跡として広く内外に知られている。

この鈴木遺跡と市指定史跡の八小遺跡について、市民を始めとする多くの方に歴史的意義を理解していただくために、ウォーキングマップ「こだいらの遺跡ウォーク」を作成した。また、学芸員の解説を聞きながら、鈴木遺跡、八小遺跡を探訪し、遺跡の立地や景観を観察するウォーキングイベントを開催した。

▽実施日

平成 24 年 11 月 10 日（土）

▽コース

鈴木遺跡資料館 → 鈴木遺跡保存区 → 小平第八小学校 → こげらの森 → 鈴木遺跡資料館
解散（約 1 時間 30 分）

▽参加者数

40 人（午前の部：18 人・午後の部：22 人）※親子参加あり

▽実施状況

● 「こだいらの遺跡ウォーク」の作成

参加者がウォーキングマップを見ることで、当時の水系、流路など地形について、イメージできるよう、工夫を凝らした。

● ウォーキングイベント

当日は、雲一つない青空のもと、参加者は、配布されたウォーキングマップ「こだいらの遺跡ウォーク」を手に、学芸員の解説を聞きながら、かつての地形の状態や位置を確認した。ふだん気にも留めないような路面の凹凸や市内では珍しい急な坂道といった地形が、遙か昔の川筋や、それによって開析された支谷の存在を伺わせること、また、鈴木遺跡資料館に戻って遺物や地層の剥ぎ取り標本などの解説を聞くことによって、改めて遺跡を成り立たせた



ウォーキングの途中、学芸員の解説を聞く参加者

地形や当時の景観に思いを馳せていた。

▽参加者の声

参加者からは、「鈴木遺跡、八小遺跡のもつ歴史的な意味を理解することができた」、「当日配布されたウォーキングマップ（こだいらの遺跡ウォーク）を片手に学芸員の解説を聞くことで、さらに理解が深まった」などの声があり、歴史的遺産に関心があることが伺えた。また、ウォーキングマップ「こだいらの遺跡ウォーク」を活用して、今後もウォーキングイベントを実施するなど、引き続き鈴木遺跡の歴史的遺産の普及に努めていく。



鈴木遺跡資料館での様子

▽今後の取組

鈴木遺跡の国指定史跡化を目指し、遺跡範囲確認調査を実施するとともに、鈴木遺跡発掘調査総括報告書を作成するなどの準備を進める。

2 小平市文化財総合調査報告書の作成

● 「小平の石造物 ー第2編ー」

小平では市内の寺社をはじめ、街道沿いや個人のお宅の庭先などに地藏、馬頭観音、庚申塔などの石造物を数多く見ることができる。これらは小平の歴史や人々の暮らしを物語る貴重な文化財である。しかし、近年の開発や道路の整備に伴って、失われたり所在が分からなくなったりしたものも少なくない。こうしたことから、市内所在の石造物についての総合調査を実施し、報告書を作成した。この報告書は、地図上に所在位置を示すなど、平成5年刊行の「小平の石造物」を補完する内容となっている。

- ・発行：平成25年3月31日
- ・発行部数：500部
- ・価格：500円

● 「小平の歴史的建造物ー建物からみる小平のくらしー」

小平市内には江戸時代から現在までに建てられた歴史的建造物が数多く所在している。街道沿いを歩いてみると寺社や農家の蔵などが目にとまる。これらの歴史的建造物は市民の暮らしぶりが反映され、その時代の息吹を語り伝えている。高度経済成長期以降、都市化が急速に進んだことにより人々の生活スタイルの変化とともに、建造物の洋風化などが進み、農家のたたずまいも大きく変わってきた。こうしたことから、初めての試みとして市内の歴史的建造物についての総合調査を実施し、報告書を作成した。

- ・発行：平成25年3月31日
- ・発行部数：500部
- ・価格：550円

▽事業費

- ・小平の遺跡をあるく 399,000円
- ・小平市文化財総合調査報告書の作成 3,722,040円



小平の歴史的建造物

鈴木ばやしの映像記録保存

▽事業概要

鈴木ばやしは、小平市内の鈴木地区に江戸時代から伝わる郷土芸能で、笛、太鼓、鉦のリズムに乗って、獅子舞、おかめ踊りなどを舞うものである。昭和 45 年に、市の無形民俗文化財に指定されるとともに、「小平市鈴木ばやし保存会」が設立され、鈴木ばやしの普及と後継者の育成を目指し、地域の祭礼や市民まつりなどで活動している。小平の伝統文化を後世に残し、引き継ぐため、市内唯一の無形民俗文化財である鈴木ばやしの公開収録を行い、映像記録として DVD 等へ保存を行った。(平成 23 年度実施)

▽収録日

平成 23 年 8 月 13 日 (土)

▽収録場所

ルネこだいら中ホール

▽来場者数

350 人

▽記録化に携った人数

40 人

▽内容

鈴木ばやしの映像記録化を行った。

● I 部 (実演記録)

市民に公開し、全曲を流れに沿って実演したものを撮影、編集した。

● II 部 (実演解説)

楽器、調律の説明、曲構成と各曲の実演解説を撮影、編集した。

これらの映像記録 (DVD、ブルーレイ各 10 枚) を作成した。



鈴木ばやし映像記録の DVD



仁羽 (にんば) の画像



宮昇殿（みやしょうでん）の画像

▽成果

「小平市鈴木ばやし保存会」と連携し事業を実施し、忘れかけられていた宮昇殿という演目の復元をはじめ、鈴木ばやしの全てを記録することができた。また、完成した映像記録を市ホームページで動画配信するとともに、市民や団体等への貸出を行うことで、市民の文化財への関心が高められ、文化財の保存と活用が図られた。

▽今後の取組

鈴木ばやしについて、文化財めぐり、特別展、文化財ウイークなどを活用したPRや、市報、ホームページなどによる情報発信を行い、文化財の保存と活用を進めていく。

▽事業費

344,400円（平成23年度）



ホームページ（キッズページ）での動画配信